

みんなのひろば

Message



市民と編集担当者とのおしゃべりコーナー「みんなのひろば」です。みなさまからいただいたメッセージを紹介していきます。今回は、前号(48号)のクイズ応募ハガキからです。

するなんて考えられません。(60代)

働きながら、がんばって子育てしている人も多いので、外国の方も住みやすい淡路市にしたいですね。病院で介護してくれる人が外国の方でも不思議ではない時代です。

▼「風の匂い」の映画を東浦公民館のふれあい学園でみました。障害者の人も社会で働けるように工夫したりして共に生きていけるようになればいいなと思いました。(60代)

障がいのある人も地域で共に働ける社会は、どうしたら築けるか?を考える「風の匂い」の上映をしています。現在、市内で1416名の方に鑑賞してもらっていますが、まだの方は、ぜひ地域での上映会を企画してほしいと思います。

▼P4の外国人で、257人居るのを知りました。ビックリです。知らない所で生活

たように思います。(60代)

私の時代も、バラバラのバラバラでした。靴箱・弁当温め器、彫刻刀のキズの入った木の机とイス、購買部で新しく買った消しゴムの匂い、懐かしいけどいつたい何時代?

▼住村竜市郎選手(淡路市出身) 人権大使に採用、無理ですか? 強い人!! 正義の使者です!(40代)

すごいアイデアだと思います。「淡路市人権大使」という啓発手法、考えてみたいと思います。ちなみに、ひょうご人権大使は、元100m日本記録保持者の伊東浩司さんです。毎年、「ひょうごヒューマン・フェスティバル」に来てくれます。いいですね。

▼手話おぼえています。(70代)

これで、5地域の名前そろいました。次が楽しみ。

▼メッセージをお寄せください
クイズ応募ハガキ、FAXやメールでお願いします。

TEL 0799-164-2521
FAX 0799-164-2565
Eメール: awaji_jinken@city.awaji.lg.jp

くらしのトピックス⑩ 淡路市社会福祉協議会

「引きこもり問題」を地域ぐるみで考える!!

「8050(ハチマルゴーマル)問題。聞きなじみのない方がほとんどではないでしょうか?

80歳代の親と、定職に就かず引きこもる生活を長年続ける50歳代の子どもが、世帯ごと孤立している状態を近年「8050問題」と表現しています。

この問題に関わらず「不登校」「ニート」「引きこもり」などの問題は全国的に注目を集める社会現象になっています。

また、このような社会的孤立の状況は、不就業による生活困窮やゴミ屋敷問題などに形を変え、私たちの身近な地域に存在し得る状況になっており、淡路市においても、これらの問題の改善に向け、人権教育研究協議会、民生委員・児童委員協議会、社会福祉協議会などが検討を始めています。

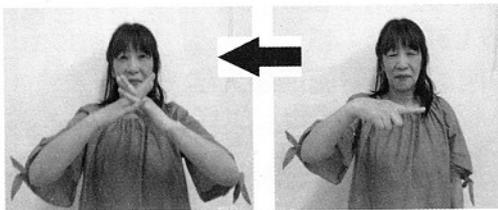
「孤立」状態の改善には、「人を制度で支える」から「人が人を支える」への視点の転換が必要と捉えるのではなく、社会構造によるものという捉え直しが必要ではないでしょうか。

ぼわんといいん 手話 !!

第38回

手話は、ろうあ者が日常生活に用いているコミュニケーションの方法です。このコーナーでは、手話やるうあ者の生活を紹介します。

「一宮」



指を伸ばして組み、お宮の屋根形を表す
片手人差し指を真横にして出す

ろうあ者の日常生活を知ろう⑩
子どもがまだ1歳前後のころは、私が例えば喉に手をあてて「喉かわいた?」と手話(サイン)をすると通じ合うことができ嬉しいものでした。成長するにつれ、子どもはつたない言葉で一生懸命伝えようとするのですが言いたい事や気持ちがなかなかくみ取れず、コミュニケーションをとるのが大変でした。

協力: 淡路聴覚障害者協会
手話サークル津名